

日々の祈り

2021年3月22日(月)~28日(土)

宮崎中部教会



<はじめに>

それぞれの日々の生活の中で、神さまに心を向け、御言葉を聞き、祈りをもって過ごしましょう。教会のために、兄弟姉妹のために、隣人のために、祈りを合わせましょう。

<使い方>

毎日の御言葉を、可能であれば声に出して、二回以上読んでみましょう。御言葉をじっくりと味わい、聖霊に導かれるまに、祈りの時をもちましょう。

<今週の祈りの課題>

- ・受難節(レント)を過ごしています。わたしたちの救いのために、イエスさまが苦難と十字架を負って下さったことを覚え、悔い改めと感謝の時を過ごすことが出来るように。
- ・兄弟姉妹の信仰の歩みが守られ、日々の上に主の平安があるように。
- ・コロナウイルスや自然災害などで、苦しみや困難にある人々のために。

22日(月)

ルカによる福音書 12章 49~50節

わたしが来たのは、地上に火を投ずるためである。その火が既に燃えていたらと、どんなに願っていることか。しかし、わたしには受けねばならない洗礼がある。それが終わるまで、わたしはどんなに苦しむことだろう。

昨日の御言葉を思い巡らしましょう。イエスさまは、わたしたちに火を投ずるために来て下さいました。それは、罪と死に捕らわれ、憎しみや争い、欲望が燃え盛るわたしたちの火を覆い尽くし、そして焼き尽くす火です。更には、そこに新しい命を与える火です。この火を投ずるために。そして、わたしたちが焼き滅ぼされる苦しみと死を引き受けるために、イエスさまは受難と十字架の道を歩まれたのです。

23日(火)

ルカによる福音書 1章 78~79節

これは我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、/高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、/我らの歩みを平和の道に導く。

イエスさまがお生まれになる前の、洗礼者ヨハネの父ザカリアの預言です。イエスさまが与えて下さる平和は、わたしたちの争いが無くなることや、心が穏やかでいる、というようなことではありません。イエスさまの平和とは、人が自分の力では抜け出すことの出来ない暗闇と死の陰に光が照らされ、命の源である神さまの御許へと連れ出され、人が神と共に歩む者とされることによって与えられる「平和」です。この平和の実現のために、御子は生まれ、苦しみを受け、十字架に架けられたのです。

24日(水)

エフェソの信徒への手紙 2章 14~16節

実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。

わたしたちは神さまに対して罪を犯しています。そのために、隣人をまことに愛することも困難です。神さまがわたしたちと和解して下さり、わたしの敵意を取り壊し、新しい人に造り上げて下さり、神さまの霊に一つに結び合わせて下さることで、人は互いにも一つとされ、組み合わされ、まことの平和のうちに共に歩む者となることが出来ます。この実現のために、キリストの十字架があります。

25日(木)

詩編 25編 11~12節

主よ、あなたの御名のために／罪深いわたしをお赦してください。主を畏れる人は誰か。主はその人に選ぶべき道を示されるであろう。

どう歩むべきか分からない時があります。しかし主が、わたしたちに選ぶべき道を示して下さいます。示されるためには、主の御声を聞かなければなりません。そのためには、主の御前に出なければなりません。そのためには、罪を赦され、憐れみを頂かなければなりません。しかし、恐れをもって御前に悔い改める時、主は歩むべき道を、主と共に歩む最も幸いな道を、示し、導いて下さるでしょう。

26日(金)

申命記 30章 19~20a節

わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。

次の主日礼拝の御言葉です。わたしたちの前には、生と死、そして祝福と呪いが置かれています。わたしたちは自ら選ぶことが出来ます。しかしそれは、勝手にすれば良い、との放任ではありません。喜んで、望んで、それを選ぶことが出来るということです。そして、選ぶべきものは教えられています。あなたは命を選び、命を得るようにし、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。

27日(土)

ルカによる福音書 12章 56~57節

偽善者よ、このように空や地の模様を見分けることは知っているのに、どうして今の時を見分けることを知らないのか。あなたがたは、何が正しいかを、どうして自分で判断しないのか。

明日の主日礼拝の御言葉です。わたしたちは、今の時を見分け、自分で判断しなければなりません。自信がないと思うでしょうか。自分には出来ないと思うでしょうか。しかし、これは自分の知恵や経験による判断ではありません。「正しい」判断とは、主の御目に正しいということです。そのために必要なものは、既に神さまから与えられています。それを今、よく見つめ、用いて判断するのです。主の御言葉を聞き、救いの恵みを受けた者は、神さまの御心に従って、正しい判断をすることが出来るのです。

聖句：日本聖書協会『聖書 新共同訳』